

議事録

会議の名称	(番号) 1-06	令和6年度第1回墨田区廃棄物減量等推進審議会		
開催日時	令和6年7月5日(金) 10時00分から11時30分まで			
開催場所	庁議室(区役所7階)			
出席者数	16人 [委員] 萩原なつ子 見山謙一郎 井上佳洋 石倉則子 伊藤林 丁官一郎 齋藤敬三 佐藤美帆 長津かよ子 小木曾清三 牟田口雄彦 山田清子 橋本玲子 藤崎こうき おまた雄一 岩下弘之 [事務局] 環境政策課長 環境政策課主査2名 環境政策課係員2名 清掃事務所長 清掃工場長 清掃事務所係長3名 清掃事務所係員			
会議の公開 (傍聴)	公開(傍聴できる)	部分公開(部分傍聴できる)	傍聴者数	0人
議題	1 廃プラスチック分別収集・再資源化事業について 2 審議会の統合・再編について			
配付資料	資料1 (表面) 廃棄物減量等推進審議会(第12期)委員名簿 (裏面) 審議会関係条例・規則 資料2 廃プラスチック分別収集・再資源化事業の実施状況について 資料3 環境審議会と廃棄物減量等推進審議会の統合・再編について			
会議概要	1 開会 2 区長挨拶 区長から挨拶があった。 3 新委員紹介 環境政策課長から第12期委員の紹介があった。 4 会長・副会長互選 委員の互選により、会長は萩原なつ子氏に、副会長は見山謙一郎氏に決定した。 5 議事 (1) 廃プラスチック分別収集・再資源化事業について 事務局から、廃プラスチックの分別収集・再資源化事業の実施状況について報告した。			

(2) 環境審議会と廃棄物減量等推進審議会の統合・再編について
環境審議会と廃棄物減量等推進審議会の統合・再編について報告した。

【(1)の報告に対する質疑応答、意見】

(委員) 区民の方から可燃ごみとプラスチックの量が逆転してきているという話を聞いた。今後、プラスチックの回収回数を増やすことは検討しているか。

(事務局) 今年度、可燃ごみの回収量はプラスチックの回収量の10倍以上となっており、2年後、3年後それが逆転するというのは考えにくい。このため、現時点で回収回数の変更は検討していない。

(委員) 可燃ごみは匂いがあるが、プラスチックは洗えば匂いはないため、その差は大きい。プラスチックの出し方についてであるが、はがせないラベルはついたままで問題ないのか。

(事務局) プラスチックではラベルがはがせないものはそのまま出して問題ない。はがせるものははがして出す必要がある。

(委員) プラスチックの出し方について区民への周知が必要と考える。

(事務局) チャットボットにて、廃プラスチックに関する質問があった際にはこれに対応できるようにしている。

(事務局) 今年度の4月から集積所看板のデザインを一新し、区内9,000か所の集積所看板を順次入れ替えている。千葉大学教授の知見を借りて作成したものであり、このような方法でも周知を図っている。引き続きごみ・資源物の出し方について、周知徹底を強化していく。

(委員) ごみステーションをみると、徐々にプラスチックの量が増えてきていると感じる。これは非常に良い傾向である。

(委員) なぜプラスチックの日を作ったのか、分別回収されたプラスチックがどのように再商品化されているのかを区民の皆さんに知っていただくことがとても必要であると考えている。その点について、所管としてどのように考えているか。

(事務局) 区民の方々に一生懸命出したプラスチックがどのようにリサイクルされているのかを見せることは非常に重要であると考えている。現在、採用している再資源化ルートでは、再資源化事業者は競争入札で決定されるため、業者や再資源化手法を選ぶことができない。しかし、今後は認定計画ルートというものを採用し、どのようなリサイクル手法でどのようなものを作っているかを見せられるような計画を策定していく予定。現在、プロポーザルを実施しており、その計画を共に策定する事業者を選定している。区として区民の方々によりわかりやすいリサイクルの形を見せられるよう取組みを進めている最中である。

(委員) 認定計画ルートは何年契約になるのか。

(事務局) 最長3年である。

(委員) ごみ出しだが、なぜ8時までに出さなければならないのか。

(事務局) ごみの受入れ先である清掃工場や中間処理施設の受入れ時間が決まって

	<p>いる。受入れ時間に間に合うように逆算をするとスタートは8時という時間になる。当然、多くごみステーションを巡回していくため、地域によっては午後の収集となるケースもあるが、当日の道路状況を鑑み、巡回ルートを決めることもあるため、全ての地域において8時までにごみを出すよう周知しているところである。</p>
(委員)	<p>ごみの廃棄量等について、粘り強くデータを取っていくことが大切である。区民への説得力が増す。</p>
(委員)	<p>いつ頃、収集車がくるのかリアルタイムでわかると良い。ぜひ検討を。</p>
(委員)	<p>回収したプラスチックに含まれる不適合物の割合である残渣率について15～20%と想定していたようだがどういった基準で設定したのか。また、プラスチック回収量の1日あたりの目標値を8.5トンと設定した根拠はあるか。さらに、ごみの収集時間についてルートが同じであると収集時間が固定化されてしまい、収集時間の遅い地域は出されるごみの量が増え、町の景観にも影響する。</p> <p>週によっては、逆ルートで回ること等も検討してみては。</p>
(事務局)	<p>残渣率については、先行自治体の実績を参考に想定をした。回収量については、令和3年度にコンサルを入れ、墨田区ではどれくらいの量になるか調査を実施した。その結果、年間2,650トン、1日あたり8.5トンの回収量を目標とした。</p>
(委員)	<p>ごみの出し方の詳細について、ペットボトルのキャップの出し方等、まだ正確に理解できていないところがある。</p>
(事務局)	<p>ペットボトルのキャップはプラスチックの日に出すのももちろんだが、他に、集まったキャップを買い取り、そのお金の一部をワクチン代として接種が難しい国や地域に寄付するというものがある。それは年間24回、公園で実施している古着回収イベントの際に行っている。また、庁舎や清掃事務所の方で透明の容器を設置し回収をしている。社会貢献につながる取り組みとしてぜひ知っておいていただければ。</p>
(委員)	<p>小さい回収車を見かけることがあった。大きい回収車の方が回収率は上がるのでは。</p>
(事務局)	<p>狭小路地については、大型の車両ではなく、小型の車両で回収をしているため、見かけた車両はその可能性が高い。その地域にあったスタイルで回収を実施している。</p>
(委員)	<p>墨田区のごみ分別率が23区のなかで上位にいる。</p> <p>適切なおみ出しについて重要な点が3つあると考える</p> <p>1. 知識・責任 2. コスト 3. 規範・コミュニティ</p> <p>分別は1番末端の環境問題の解決策だと思っている。分別は誰もができ簡単であるため、1人1人が知識と責任を持ち行動することが大切である。次にコストであるが、面倒であるからプラスチックの日ではなく、可燃の日に出してしまうこと等があげられる。最後に規範やコミュニティであるが、地域のそれがしっかりしていれば、適切なおみ出しが出来</p>

	<p>ていると考える。</p> <p>新しいごみ・資源の出し方について、個別に説明会を開くと聞いていたがなにもないままはじまり、最初はプラスチックを出す人がかなり少なかった。やはり知識と責任は大切であるとする。</p> <p>(事務局) 4月からプラスチックを分別するというので事前説明会を14回、学校で開いた。また、お問い合わせがあった際には職員が出向いて説明も行い、現在も実施中である。</p> <p>(委員) お問い合わせをする人は常にアンテナを張っている人である。ここに漏れる人へ周知対応していくことが大切である。</p> <p>(委員) 言葉で伝えて周りの人を巻き込んでいくことが大切である。</p> <p>【(2)の報告に対する質疑応答、意見】</p> <p>(委員) 環境審議会と廃棄物審議会は異なる審議会それぞれ重要なテーマを審議しているものであることから、統合について多くの意見をお聞きできれば。</p> <p>(委員) 環境審議会については廃棄物のことも扱えるような条例を制定していたが、20年前では環境問題と廃棄物問題を一緒に扱うということは想像できなかった。今となっては、23区の中で統合している区がいくつかある。私は統合することによって審議会を一体となって発展させていくことができると思う。</p> <p>(委員) 提案だが、部長も委員の1人として入ってはどうか。</p> <p>(委員) ごみや環境問題に関心のある職員に入ってもらうことはとても良いと思う。関係する部や課の職員が入るのではなく、全庁的に、関心があり墨田区在住の職員が委員として入ってもらえれば。ぜひご検討いただければ。</p> <p>3 その他 事務局から、次回審議会の開催時期等について説明があった。</p> <p>4 閉会</p>
所 管 課	資源環境部環境政策課環境政策担当 (5608-6209)